「世界遺産」和食 食卓離れ

■登場メニュー上位は「味噌汁」「焼き魚」

世界文化遺産に指定されて脚光を浴びる和食だが、家庭の食卓メニューでは和食・魚離れが進み、洋食化・肉食化の傾向が高まっている。日本能率協会総合研究所が調査したところ、肉じゃがなど和食の定番メニューがこの7年間で5ポイント以上増えた。仕事の有無にかかわらず主婦は調理に「時短」を一層求めるようになっているが、味噌汁だけは「手作りしよう」とあえて意識する人が増えた。

調査は、日本能率協会総合研究所が「メニューからみた食卓調査2014」として発表。特徴的な結果をまとめた。

一般的な家庭料理を中心に65項目のメニューを挙げ、「月1回以上登場するメニュー」を聞いた(図1)。上位15項目の中から和食メニューをピックアップしたところ、1位は「味噌汁」で、92%の主婦が月に1回以上食卓に登場すると答えた。次いで「焼き魚」(2位)が88%、「和風めん類」(6位)が80%、「豆腐料理」(13位)が70%、「野菜のおひたし・和え物」(15位)が68%。純和食は5項目に過ぎない。

その5項目を時系列で比較した(図2)ところ、「味噌汁」は減少傾向だったのが、13年から14年にかけて増加した。「手作りメニュー」の設問でも5ポイント弱増えた。インスタント味噌汁などが多くなる中、あえて「手作り」を意識する人が増えているのかもしれない。

一方、「和風めん類」「豆腐料理」「野菜のおひたし・和え物」は7年間で減少が続いている。豆腐や野菜の小鉢など気軽な和食の1品メニューが食卓から減っている。

このほか、この7年間で5ポイント以上減少したものを見ると、「刺し身」「肉じゃが」「かぼちゃの煮物」と、和食の定番メニューが挙がる。

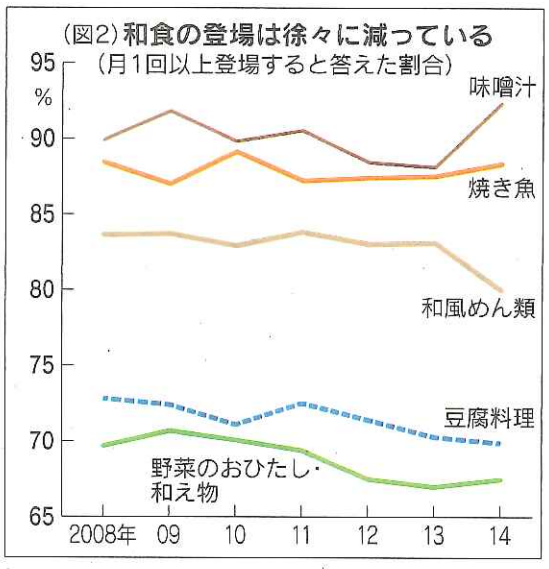
逆に5ポイント以上増えたのは「鶏のから揚げ」「スープ」「ハンバーグ」など洋食系メニューが多い。小鉢に入れる副食が減り、一皿メニューが増えている。

続いて、メニュー作りの背景にある節約意識について見てみよう。「できるだけ食費を切り詰める」かという問いに対し、全体では「はい」が23%、「どちらかといえば、はい」を合わせると68%に達する。

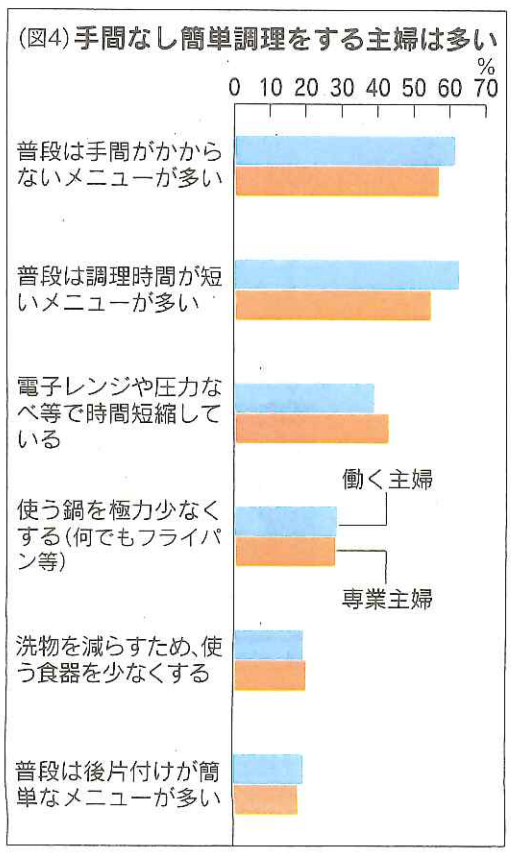
「はい」の人を時系列でみると、リーマン・ショック後の09年が31%とピークで年々節約意識は緩和している(図3)。

(図1)月1回以上登場するメニュー

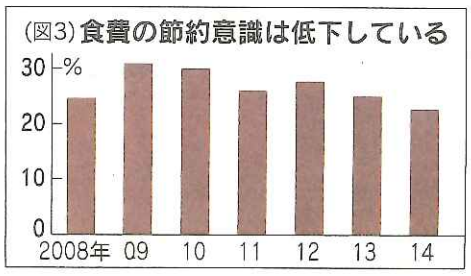
1位	味噌汁
2位	焼き魚
3位	野菜サラダ
4位	卵焼き・目玉焼き
5位	カレー
6位	和風めん類
7位	野菜炒め
8位	スープ
9位	パスタ・スパゲティ
10位	鶏のから揚げ
11位	餃子
12位	ゆで野菜
13位	豆腐料理
14位	焼きそば
15位	野菜のおひたし・和え物



調理省力化の意識強く



食卓では小鉢が減り、ワンプレート化が進んでいる。



働く主婦と専業主婦で比較すると、働く主婦が25%なのに対し、専業主婦が20%と、働く主婦の方が節約志向が高い。働く主婦はダブルインカムで高収入のイメージがあるが、働く主婦のうち「外でパートやアルバイト」という人が64%で「フルタイム勤務」は23%にすぎない。家計が苦しいから働かざるを得ない人も多いと推測される。

次に、普段の調理についての考えや行動から、省力化に関する項目をピックアップした(図4)。主婦全体では「普段は手間がかからないメニューが多い」「普段は調理時間が短いメニューが多い」が6割、次いで「電子レンジや圧力なべ等で時間短縮している」が4割、「使う鍋を極力少なくする(フライパンなど)」が3割だった。

時系列でみると、「省手間メニュー」「時短メニュー」ともに、08年から5ポイント以上増加しており、主婦の調理に対する省力化の意識は年々強まっている。働く主婦と専業主婦で比べると、「省手間メニュー」「時短メニュー」は働く主婦ではともに6割を超える。働く主婦よりも5ポイント、8ポイント低いが専業主婦でも5割台と半数を超えた。メニュー選びでの時短・省手間志向は、働く主婦の方が強い。

「電子レンジや圧力なべ」での時短は専業主婦の方が高く、「何でもフライパン」「洗うものを減らすため、使う食器を少なくする」「普段は後片付けが簡単なメニューが多い」はそれほど差がない。時間的なゆとりのある専業主婦でも、半数以上は「省手間メニュー」「時短メニュー」を意識している。さらに、便利な器具や後片付けの段取りを工夫して手間を減らしている。今の主婦は働いているかどうかにかかわらず、調理を省力化している。(日本能率協会総合研究所 グローバル事業部 消費者研究部 研究員 土井 晴子)

＝詳細は「同研究所のウェブサイト」に

調査の概要 日本能率協会総合研究所が昨年7月「モニターリサーチ・システム」を利用し、首都圏や中部、近畿圏に住む20～60代の主婦(既婚女性)を対象にファクスで実施した。1500人に発送し、1082人から有効回答を得た。(有効回答率は72・1%)。

ポイント

❶食卓メニューの和食離れ・洋食化が続くが、手作りの「味噌汁」がこの1年で増加傾向だ。

❷食費の切り詰め意識は2009年以降、徐々に緩和。専業主婦より、働く主婦の方が節約志向は強い。

❸主婦の時短意識は高い。働く主婦はメニュー選択で、専業主婦は器具や段取りで工夫している。